

ベニサンゴ

分類：ヤギ目 骨軸亜目 ホンサンゴ科(花虫綱 八放サンゴ亜綱)
 学名：*Corallium rubrum*
 英名：Coral

金、銀、珊瑚と表現されるように、日本では古来から貴重なものとされてきた。日本近海にはアカサンゴ(*C. japonicum*) モモイロサンゴ(*C. Ronojoi*) シロサンゴ(*C. elatius*) 等が見られ、これらの装飾サンゴ類はポリプの集合した群体で20~30cm位の樹枝状のものが多い。ポリプは直径1~2mm位の小さな円筒状で先端の周りには8本の羽状の触毛をもつ無数の骨片が固まってできた石灰質の薄い層の集りである骨軸は緻密に膠着し共肉の中にかくれ、その髄は白い。鉄分を含んだ有機質により紅色をしているが、表面の色が上品で美しいため装飾として利用される。日本近海から台湾にかけての水深百mから数百mの潮流の早い岩礁地帯に分布し、麻縄を束ねて作ったサンゴ網で漁獲される。地中海、特にイタリア近海のものは良質とされ有名である。



日本 -1972-



アルバニア -1975-



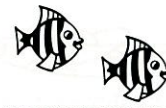
日本 -1972-



日本 -1975-



左側 紅色 ベニサンゴ
Corallium rubrum
 中央 白色 オオイソバナ
Melithaea ocracea
 右上方 ピンク色 ベニアミコケムシ
Iodictyum axillare
 モナコ -1974-



ヤギ類

分類：ヤギ目 全軸亜目(花虫綱 八放サンゴ亜綱)
 学名：各項に記載
 英名：

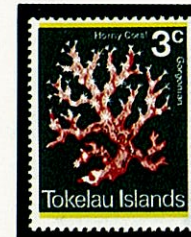
伊豆半島以南の暖海、特にサンゴ礁地帯の浅海に豊富に群生する。ヤギ類の大きな特徴として細い枝分れた樹枝状又は扇状の群体は植物のような錯覚にとられるが腔腸動物の一員である。水の動きに対し直角に発達するので波浪潮流の影響を強く受ける低潮線附近のものは水が上下に動くため海面に平行に広がりやや深みのところでは海面に直角の群体となる。共肉の中軸部にある角質体が同心円状に薄板となって並び固い角質の軸をつくる、共肉部はうすくポリプはその中に埋れ、ポリプの短い胃腔はお互いに小さな管系で貫通している。ポリプには二つの型があって、8本の羽状触毛をもったものはプランクトンなどの餌をとる役目をし、触毛をもたないものは共肉内の水流の交換を司る。



イロドリフタヤギ(フタヤギ科)
Paramurica chamaeleon
 アルバニア -1975-



ウミウチワ
 カイマン諸島 -1974-



イソバナノ一種(イソバナ科)
Melithaea sp.
 トケラウ島 -1973-



サイツチャギノ一種(ホンヤギ科)
Eunicella covalini
 アルバニア -1975-



ウミウチワ(ウチワヤギ科)
Gorgonia flabellum
 バーミューダ -1969-



オオイソバナ(イソバナ科)
Melithaea ocracea
 ギルバート・エリス諸島 -1972-



左端に同じ
 バーミューダ -1969-